

日本助産学会研究助成金(若手研究助成)研究報告書

育児期における夫婦のコミュニケーション態度の特徴と夫婦関係満足度に及ぼす影響  
—1歳6か月児・3歳児を育てる夫婦に着目して—

森田 千穂  
(新潟青陵大学)

## 分担研究者

渡邊 典子 新潟青陵大学

### I. はじめに(研究目的含む)

#### 1. 現代の子育ての現状と背景

現代の子育て家庭・家族を取り巻く社会の変化のなかで、母親の孤立や育児を一人で背負う「孤独な育児」や「夫婦間の不調和」が育児困難感につながっていることが指摘されている(鈴木,2014)。国や自治体では、保育サービスの整備や子育て支援・相談事業、仕事・子育て両立事業の整備充実を推進してきた(内閣府,2018)が、子育てについての相談相手として母親に最も選ばれているのは配偶者であり(厚生労働省,2010、友田・久保・加藤他,2013)、夫は母親である妻を最も身近でサポートできる重要な存在であると考えられる。

#### 2. 親への移行にともなう発達の課題

育児期は親への移行期ともいわれ、1組の男女が結婚して独立し、子どもの誕生によってその基礎的な構造を形づくっていく時期であり、その過程においてそれぞれ大きな発達の变化を経験する(神崎,2008)。これまでの夫婦の二者関係から子どもを含めた三者関係へ移行することで、夫婦に夫・妻としての役割以外に父・母としての役割も加わり、夫婦の関係性に大きな変化が生じる(Jay Belsky・John Kelly,1995、中澤・倉持・田村他,2003、倉持・田村・久保他,2007)。この親へ発達していく移行の過程で、夫婦は育児の分担や生活の仕方に関する葛藤や不和を経験することになり、適切に対応できなければ夫婦関係は悪化すると報告されている(Jay Belsky・John Kelly,1995、中澤・倉持・田村,2003、小野寺,2005、田中,2010)。

神谷(2016)は、親への移行過程における夫婦の役割相互調整は、日常的な子どもとの生活における実際の育児分担、夫婦間のコミュニケーションが繰り広げられる中で、夫婦関係満足や夫婦双方の性役割感や親役割感が大きく揺らぐダイナミックな過程を辿り、その家族のルールとパターンを形成・再構築していくことであると述べている。また、Belsky(1995)は、250組の夫婦を妊娠中から子が3歳になるまで縦断的に調査した研究で、親への移行期に夫婦関係を方向付ける6つの要素を見いだした。6つの要素とは「自己」「性イデオロギー」「情緒傾向」「期待」「コミュニケーション」「摩擦管理」である。家族システムの理論である Olson の円環モデルでは、①凝集性(きずな)、②柔軟性(かじとり)、③コミュニケーションの3つが重要概念とされ、コミュニケーションは凝集性と柔軟性の機能を促進するものであると位置づけられている(立木,1999)。

以上のことから、家族システムやその下位システムである夫婦システムの機能を良好に維持し、親への移行にともなう発達の課題を乗り越えるためには、夫婦のコミュニケーションが重要な要素であると考えられる。

#### 3. 夫婦のコミュニケーション研究の動向

平山(2004)によれば、米国では1920年代頃から夫婦についての理論的・実証的研究が行われ、1960年代に入って不和に悩む夫婦とうまくいっている夫婦ではコミュニケーションスタイルが異なることが注目され、両群の比較研究が行われるようになったという。具体的には、夫と妻ではコミュニケーション能力・行動に違いがみられることが報告されている(Gottman・Markman・Notarius,1977)。例えば、葛藤場面におけるコミュニケーション行動では、妻が要請的(demanding)であるのに対し、夫は回避的(withdrawal)態度をとる傾向が強く、要請一回避パターンが観察されること(Christensen&Heavey,1990)が明らかにされた。

夫婦研究が盛んな米国に比べて、わが国においては夫婦間のコミュニケーションに関する研究自体が多くはないのが現状であり、そのなかでも中年期を対象としたものが多くを占めている。中年期夫婦を対象とした研究(平山・柏木,2001)では、夫婦間コミュニケーション態度として、「共感」「依存・接近」「無視・回避」「威圧」の4因子が同定された。また、妻では「共感」「依存・接近」というポジティブな態度を、夫では「無視・回避」「威圧」というネガティブな態度をより強くとっており、コミュニケーション関係における非対称性を示した。平山は、この背景には伝統的な性役割観の影響と二者相互の社会経済的な力関係があると考察し、夫婦のコミュニケーションを文化・社会的文脈のなかで理解する必要性を強調している。

徐々に知見が蓄積されつつある中年期に比べて、育児期の夫婦間コミュニケーションに焦点を当てた研究は非常に少ない状況にある(田中,2017)。日本では、「黙っていても分かり合える関係」を理想と捉える考え方が存在していたことが夫婦間コミュニケーション研究が立ち遅れた一因であると指摘されている(柏木・大野・平山,2009)。また、夫婦関係や夫婦コミュニケーションに関する先行研究はほとんど心理社会学者によるものであり、看護の現場における適用には至っていない(塩野,2017)ことも指摘されている。

#### 4. 研究目的

本研究は、育児期の夫婦間コミュニケーションの特徴を明らかにし、夫婦間のコミュニケーションが夫婦関係満足度に及ぼす影響を検討することを目的とした。

## II. 研究方法

### 1. 研究デザイン

本研究は、無記名自己記入式質問紙調査による横断研究である。

### 2. 対象者

調査対象者は、未就学児を育てる夫婦とし、母子保健法にもとづいて A 市内で実施された1歳6か月児健康診査ならびに3歳児健康診査(以下、健診とする)を受診した児の両親とした。なお、児の健康障害や発達障害の有無は問わないこととした。

### 3. 研究方法

#### 1) 依頼・配布方法

A 市内で実施された1歳6か月児ならびに3歳児健診時に、受診児の保護者に対し、調査協力依頼書、夫婦間のコミュニケーションに関する質問紙および返信用封筒一式(夫用、妻用1部ずつをセットにしたもの)を配布し、自宅にて回答後、夫婦各々投函してもらった。調査期間は2019年2月～3月であった。

#### 2) 調査内容

夫婦間コミュニケーション態度尺度(平山ら,2001)、夫婦の一日の会話時間と会話時間に対する満足度、基本属性を調査した。夫用・妻用ともに同一の質問項目で構成した。夫婦間コミュニケーション態度尺度は、自分から相手への態度を問う設問と、相手から自分への態度を問う設問からなる。

#### 3) 分析方法

中年期夫婦を対象とした調査により作成された夫婦間コミュニケーション態度尺度について、因子分析を行うことにより因子構造を再考した。次いで、下位尺度ごとに夫婦間の得点を t 検定により比較した。また、夫婦の会話時間については、基本統計量を算出し、夫の帰宅時間や会話満足度との関連を Mantel-Haenszel の傾向性検定を用いて分析した。

コミュニケーション態度が夫婦関係満足度に与える影響を検討するために、夫婦関係満足度を従属変数、夫婦間コミュニケーション態度の3態度得点(「接近・共感」「威圧」「回避」)を独立変数とする重回帰分析(強制投入法)を行った。なお、夫婦の態度得点をもとに Two Step クラスタ分析により、コミュニケーション態度パターンの類型化を行い、夫婦関係満足度に違いがあるかどうかを対応のない t 検定により検討した。

分析には SPSS Statistics 25 を用い、有意水準は 5%とした。

### 4. 倫理的配慮

研究の趣旨や回答の自由、匿名性の確保、データの保管・破棄に関することについて書面および口頭で説明し、質問紙の返送をもって調査協力の同意とみなした。新潟青陵大学大学院看護学研究科倫理小委員会の承認を受けて実施した(承認番号 201806)。夫婦間の独立性とプライバシーを保護する目的で、夫用・妻用の別々の質問紙を作成し、個別の返信用封筒で返送してもらう方法を選択した。なお、夫婦であることが回収後に同定できるように、夫婦それぞれの質問紙に同じ番号

を付したが、ペアリング目的のみに使用し、個人は特定されないことを説明した。

### Ⅲ. 結果

936 組の夫婦に配布し、116 組の夫婦ペアデータを回収(回収率 12.4%)した。有効回答数 116(有効回答率 100%)であった。夫の年齢  $35.7 \pm 5.6$  歳、妻の年齢  $34.3 \pm 4.9$  歳、婚姻年数  $6.9 \pm 3.5$  年、家族形態は核家族が 77.9%であった。共働き 49.6%、片働き(休業含む)50.4%であった。(表 1)

#### 1. 夫婦間コミュニケーション態度尺度の因子構造(表 2, 3)

因子分析(主因子法・プロマックス回転)の結果、「接近・共感」「威圧」「回避」の 3 因子が抽出された。各因子に対する Cronbach の  $\alpha$  係数は 0.67~0.85 であった。

#### 2. 相手へのコミュニケーション態度の夫婦間比較(表 4)

「接近・共感」においては、妻の得点が夫に比べて有意に高く( $p < 0.001$ )、「回避」においては、夫の得点が妻に比べて有意に高かった( $p < 0.001$ )。

#### 3. 夫婦の一日の会話時間と会話時間に対する満足度の関係(表 5, 6, 7)

夫婦の会話時間が 1 時間未満と回答した割合は、平日では 58.7%、休日では 23.8%であった。平日の会話時間に対する満足度は「ちょうどいい」が 59.9%、「増やしたい」が 36.2%であった。「夫の帰宅時間」と「夫婦の会話時間(平日)」( $p = 0.012$ )、「夫婦の会話時間」と「夫婦の会話時間に対する満足度」( $p < 0.001$ )の間には傾向性が有意にみとめられた。

#### 4. 夫婦間コミュニケーション態度と夫婦関係満足度の関連(表 8, 9, 10)

夫婦関係満足度を従属変数、夫婦間コミュニケーション態度の 3 態度得点(「接近・共感」「威圧」「回避」)を独立変数とする重回帰分析を行った結果、重決定係数(説明率)は夫  $R^2 = .46$ 、妻  $R^2 = .50$  であり、どちらも 1%水準で有意な値であった。夫婦関係満足度に最も強い影響力を示したのは、夫では「接近・共感」( $\beta = .52$ )、次いで「威圧」( $\beta = -.17$ )、「回避」( $\beta = -.15$ )であった。妻では「接近・共感」( $\beta = .56$ )、次いで「回避」( $\beta = -.22$ )であり、「威圧」については有意ではなかった。

クラスター分析により、接近共感的態度得点が高い「接近共感夫婦群」と威圧・回避的態度得点が高い「威圧回避夫婦群」に分類された。t 検定の結果、夫・妻ともに「接近共感夫婦群」で夫婦関係満足度が 1%水準で有意に高かった。

### Ⅳ. 考察

育児期における夫婦間コミュニケーション態度は「接近・共感」「威圧」「回避」の 3 因子構造からなり、妻は夫に対して接近共感的コミュニケーション態度をとり、夫は妻に対して回避的コミュニケーション態度をとる傾向にあることが明らかになった。先行研究の知見における中年期夫婦の「威圧的な態度の夫と依存接近的な妻」という様相とは異なるといえる。

夫婦の会話時間については、夫の帰宅時間が遅いと夫婦の会話時間は減少する、また、夫婦の会話時間が多いと会話時間に対する満足度は高まると推論できる。

コミュニケーション態度の影響は、夫婦ともに夫婦関係満足度に対し高い説明力をもっていることが明らかとなった。なかでも、接近共感的コミュニケーション態度は夫婦関係満足度を高め、影響力が大きいといえる。また、回避的コミュニケーション態度は夫婦関係満足度を低下させ、妻に対しては夫に比べてより影響力があるといえる。威圧的コミュニケーション態度の影響は、夫と妻で違いがみられ、夫においては夫婦関係満足度を低下させる方向にはたらくが、妻では影響は有意ではなかった。コミュニケーション態度パターン別の夫婦関係満足度の比較検討でも「接近共感夫婦群」の方が「威圧回避夫婦群」に比べ、夫婦関係満足度が有意に高く、上記の結果がより強く支持されるかたちとなった。

研究の限界と課題として、横断研究デザインを用いている以上、結果は因果関係ではなく相関関

係にとどまる。育児期の夫婦間コミュニケーションや夫婦の関係性がどのように培われ、今後どのような変化を遂げていくのか、縦断的な視点を含めた研究を継続していく必要がある。

## V. まとめ

育児期夫婦のコミュニケーションの特徴をふまえた親役割移行にむけた看護支援を検討していく必要がある。コミュニケーション態度が夫婦関係満足度に及ぼす影響は大きい。特に、夫婦関係満足度を高めるためには、接近共感的コミュニケーション態度と相手と向き合う姿勢が重要であることが示唆された。

## 参考文献

- Christensen,A., Heavey,C. (1990). Gender and social structure in the demand/withdraw pattern of marital conflict. *Journal of Personality and Social Psychology*, 59(1), 73.
- Gottman,J., Markman,H., Notarius,C. (1997). The topography of marital conflict: A sequential analysis of verbal and nonverbal behavior. *Journal of Marriage and the Family*, 461-477.
- 平山順子, 柏木恵子.(2001). 中年期夫婦のコミュニケーション態度:夫と妻は異なるのか?. *発達心理学研究*, 12(3), 216-227.
- 平山順子.(2004). 夫婦の職業生活とコミュニケーション. 日本家族心理学会. 家族内コミュニケーション:こころを運ぶことばの力. 金子書房, 53-66.
- Jay Belsk., John Kelly.(1994)./安次嶺佳子(1995). 子供をもつと夫婦に何が起こるか [The transition to parenthood](1). 草思社.
- 神谷哲司. (2016). 乳幼児期から児童期にかけての子どもの成長と夫婦関係. 宇都宮博. 夫と妻の生涯発達心理学:関係性の危機と成熟. 福村出版, 146-157.
- 神崎光子. (2008). 家族形成期における家族のつながりを支援する. 野嶋佐由美. 家族看護. 6(1). 8-12.日本看護協会出版会.
- 柏木恵子, 大野祥子, 平山順子. (2009). 家族心理学への招待:今、日本の家族は?家族の未来は?(第2版). ミネルヴァ書房.
- 厚生労働省. (2010). 乳児健康度に関する継続的比較研究.平成 22 年度厚生労働科学研究費補  
助金成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業.
- 倉持清美, 田村毅, 久保恭子, 他. (2007). 子どもの発達的变化にともなう夫婦の意識の変容. *日本家政学会誌*, 58(7), 389-396.
- 内閣府. (2018). 少子化社会対策白書 平成 30 年版.  
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w2018/30pdfhonpen/30honpen.html> 閲覧日 2018 年 9 月 25 日.
- 中澤智恵, 倉持清美, 田村毅, 他. (2003). 出産・子育て体験が親の成長と夫婦関係に与える影響(4): 第一子出生後の夫婦関係の変化と子育て. *東京学芸大学紀要 第6部門 技術・家政・環境教育*, 55, 111-122.
- 小野寺敦子. (2005). 親になることにともなう夫婦関係の変化. *発達心理学研究*, 16(1), 15-25.
- 塩野悦子. (2017). 産後クライシスのからくりと予防方法. *助産雑誌*, 71(10), 748-755.
- 鈴木浩子. (2014). 母親の「育児困難」の概念分析. *日本保健科学学会誌*, 17(3),127-134.
- 田中恵子. (2010). 父親の育児家事行動・夫婦関係満足度の変化と母親の育児ストレスとの関連性. *人間文化研究科年報*, 25, 215-224.
- 田中恵子. (2017). 育児期の夫婦関係研究に関する文献レビュー. *大和大学研究紀要 保健医療学部編*, 3, 3-9.
- 立木茂雄. (1999). 家族システムの理論的・実証的研究:オルソンの円環モデル妥当性の検討. 川島書店.
- 友田貴子, 久保貴子, 加藤康子, 他. (2013). 母親の子育てに関する相談相手とそこから得

られる安心感について. 埼玉工業大学人間社会学部紀要, (12), 41-46.

表 1 対象夫婦の背景

	夫 (n=116)		妻 (n=116)	
	Mean±SD	(range)	Mean±SD	(range)
	n	(%)	n	(%)
年齢	35.7±5.6	(18-49)	34.3±4.9	(20-46)
婚姻年数		6.9±3.5	(1-17)	
子どもの数		1.84±0.79	(1-4)	
1人		43	(37.1%)	
2人		51	(44.0%)	
3人		19	(16.4%)	
4人		3	(2.6%)	
家族形態				
核家族		90	(77.6%)	
拡大家族・複合家族		26	(22.4%)	
最終学歴				
中学校	4	(3.4%)	1	(0.9%)
高等学校	28	(24.1%)	23	(19.8%)
専門学校	18	(15.5%)	29	(25.0%)
高等専修学校	0	(0.0%)	1	(0.9%)
高等専門学校・短期大学	8	(6.9%)	28	(24.1%)
大学・大学院	57	(49.1%)	34	(29.3%)
その他	1	(0.9%)	0	(0.0%)
就労状況				
フルタイム勤務	109	(94.0%)	32	(27.6%)
パート・アルバイト勤務	3	(2.6%)	29	(25.0%)
週当たり就労日数	4.3±0.6	(4-5)	4.9±0.8	(3-7)
日当たり就労時間	8.0±2.8	(6-10)	5.2±1.5	(2-7)
無職	3	(2.6%)	36	(31.1%)
休業中(産休・育児・介護)	0	(0.0%)	19	(16.4%)
無回答	1	(0.9%)	0	(0.0%)
年収				
収入なし	3	(2.6%)	32	(27.6%)
130万未満	2	(1.7%)	23	(19.8%)
130～200万未満	1	(0.9%)	14	(12.1%)
200～300万未満	7	(6.0%)	17	(14.7%)
300～400万未満	32	(27.6%)	19	(16.4%)
400～600万未満	50	(43.1%)	10	(8.6%)
600～800万未満	16	(13.8%)	0	(0.0%)
800～1000万未満	2	(1.7%)	0	(0.0%)
1000万以上	3	(2.6%)	0	(0.0%)
無回答	0	(0.0%)	1	(0.9%)
帰宅時間(就労している場合)				
6～10時台	4	(3.6%)	0	(0.0%)
11～15時台	0	(0.0%)	6	(9.8%)
16時台	0	(0.0%)	11	(18.0%)
17時台	13	(11.6%)	14	(23.0%)
18時台	23	(20.5%)	24	(39.3%)
19時台	32	(28.6%)	4	(6.6%)
20時台	20	(17.9%)	1	(1.6%)
21時台	11	(9.8%)	0	(0.0%)
22～0時台	7	(6.3%)	0	(0.0%)
無回答・その他	2	(1.8%)	1	(1.6%)
夫婦関係満足度	19.4±3.8	(6-24)	19.2±4.0	(6-24)

表 2 夫婦間コミュニケーション態度尺度項目の記述統計量

項目	n	Mean	SD	1: 全くない 2: あまりない 3: ややある 4: よくある			
				1: 全くない	2: あまりない	3: ややある	4: よくある
1. あなたの立場に共感しながら、誠実に耳を傾ける	461	3.14	0.71	1.1	15.7	51.1	31.5
2. 会話がはずむように感情を豊かに表わす	461	3.06	0.81	2.4	22.8	41.4	33.4
3. 重要なことの決定は、あなたの意見に従う	461	3.05	0.75	2.6	18.4	50.8	28.2
4. 会話が途切れると相手の方から話題を提供する	461	2.82	0.88	6.1	30.4	38.6	24.9
5. あなたが相談すると、有益で参考になる意見をくれる	456	2.98	0.73	2.0	21.9	52.2	23.9
6. あなたの態度・行動で変えてほしいことがあっても黙っている	460	2.45	0.99	19.3	34.1	29.1	17.4
7. 話の内容が気に入らないとすぐ怒る	461	2.02	0.96	36.7	33.2	21.9	8.2
8. 他のことをしながらうわの空で聞く	460	2.58	0.83	9.8	34.8	42.8	12.6
9. あなたの話しにいい加減な相づちをうつ	461	2.28	0.84	17.1	45.8	29.1	8.0
10. あなたがおしゃれをしたとき、気づいてほめる	459	2.57	0.89	11.5	35.5	37.3	15.7
11. 日常生活に必要な要件を命令口調で言う	460	1.72	0.87	51.5	29.3	15.0	4.1
12. 相手自身の悩み・迷い事があると、あなたに相談する	460	3.09	0.84	3.3	21.3	38.5	37.0
13. 1日のあなたの過ごし方などを相手の方から尋ねる	461	2.65	0.91	10.0	35.1	34.5	20.4
14. あなたが話しているのに、「要するに」といって結論をせかさず	461	1.71	0.87	52.1	28.4	15.6	3.9
15. 都合の悪い話しになると、黙り込む	461	2.18	1.02	30.6	34.5	20.8	14.1
16. 嬉しいことがあると、真っ先にあなたに報告する	461	3.40	0.75	2.2	9.8	33.8	54.2
17. あなたより一段上に立って小ばかにした受け答えをする	460	1.71	0.86	51.7	29.6	14.6	4.1
18. あなたに元気がないとき優しい言葉をかける	461	2.97	0.79	4.1	20.4	49.5	26.0
19. あなたが心情を訴えても、まともに取り合わない	461	1.65	0.72	47.5	41.4	9.3	1.7
20. あなたの悩み事の相談に対して、親身になっていっしょに考える	461	3.23	0.71	1.7	11.1	49.9	37.3
21. あなたに心を開いて内面的な突っ込んだ話しをする	461	3.05	0.81	2.4	23.2	41.9	32.5

表 3 夫婦間コミュニケーション態度尺度の構造

(n=458)

因子名	項目	平山 (2001) の 因子構造	因子			α係数
			I	II	III	
接近・共感	16. 嬉しいことがあると、真っ先に相手 (あなた) に報告する	依存・接近	.757	.067	.104	.853
	21. 相手 (あなた) に心を開いて内面的な突っ込んだ話しをする	依存・接近	.703	.134	-.014	
	12. あなた (相手) 自身の悩み・迷い事があると、相手 (あなた) に相談する	依存・接近	.692	.240	-.097	
	4. 会話が途切れるとあなた (相手) の方から話題を提供する	依存・接近	.647	.211	-.044	
	2. 会話がはずむように感情を豊かに表わす	依存・接近	.610	-.041	.006	
	18. 相手 (あなた) に元気がないとき優しい言葉をかける	共感	.578	-.263	.051	
	20. 相手 (あなた) の悩み事の相談に対して、親身になっていっしょに考える	共感	.556	-.258	.002	
	10. 相手 (あなた) おしゃれをしたとき、気づいてほめる	共感	.556	-.121	.043	
	1. 相手 (あなた) の立場に共感しながら、誠実に耳を傾ける	共感	.420	-.338	-.078	
	威圧	11. 日常生活に必要な要件を命令口調で言う	威圧	-.005	.770	
17. 相手 (あなた) より一段上に立って小ばかにした受け答えをする		威圧	-.045	.684	.107	
7. 話の内容が気に入らないとすぐ怒る		威圧	.196	.665	.036	
14. 相手 (あなた) が話しているのに、「要するに」といって結論をせかさず		威圧	.084	.464	.199	
19. 相手 (あなた) が心情を訴えても、まともに取り合わない		威圧	-.350	.432	.140	
回避	8. 他のことをしながらうわの空で聞く	無視・回避	.099	.157	.744	.671
	9. 相手 (あなた) の話しにいい加減な相づちをうつ	無視・回避	.071	.206	.709	
	15. 都合の悪い話しになると、黙り込む	無視・回避	-.098	-.056	.512	
	6. 相手 (あなた) の態度・行動で変えてほしいことがあっても黙っている	無視・回避	-.130	-.453	.506	
因子間相関			I	II	III	
			—	-.417	-.496	
				—	.303	
					—	

注. 因子分析 (主因子法、プロマックス回転)

注. 夫・妻それぞれの「自分から相手への態度」と「相手から自分への態度」という2種の回答を全て含めて分析した。なお、無回答は欠損値として分析対象から除外した。

注. ( ) 内は、相手の自分に対するコミュニケーション態度を尋ねる項目内容である。

注. 平山 (2001) の尺度から除外された項目は以下の3項目であった。

3. 重要なことの決定は、あなたの意見に従う (依存・接近)
5. あなたが相談すると、有益で参考になる意見をくれる (共感)
13. 1日のあなたの過ごし方などを相手の方から尋ねる (依存・接近)



表 4 送り手からみた相手へのコミュニケーション態度得点の比較

	① 夫の妻への態度 (夫が評価)			② 妻の夫への態度 (妻が評価)			p値
	n	Mean	SD	n	Mean	SD	
接近・共感	114	2.98	0.50	114	<b>3.21</b>	0.51	<0.001
威圧	113	1.81	0.57	115	1.82	0.63	0.95
回避	114	<b>2.63</b>	0.66	115	2.14	0.56	<0.001

注. 対応のないt検定

表 5 夫婦間の一日の会話時間 (n=232)

	平日		休日	
	n	(%)	n	(%)
ほとんど会話していない	13	(5.6)	2	(0.9)
15分未満	29	(12.5)	6	(2.6)
15~30分未満	34	(14.7)	16	(6.9)
30分~1時間未満	60	(25.9)	31	(13.4)
1時間~2時間未満	50	(21.6)	37	(15.9)
2時間~3時間未満	23	(9.9)	31	(13.4)
3時間以上	23	(9.9)	108	(46.6)
無回答	0	(0.0)	1	(0.4)

表 6 会話時間に対する満足度 (n=232)

	平日		休日	
	n	(%)	n	(%)
増やしたい	84	(36.2)	47	(20.3)
ちょうどいい	139	(59.9)	181	(78.0)
減らしたい	1	(0.4)	1	(0.4)
無回答	8	(3.4)	3	(1.3)

表 7 一日の会話時間と会話時間に対する満足度の関係

		平日							合計	p for trend
		ほとんど 会話していない	15分未満	15~30分未満	30分~ 1時間未満	1時間~ 2時間未満	2時間~ 3時間未満	3時間以上		
<b>夫婦込み (n=244)</b>										
不満足	n (%)	5 (62.5)	21 (72.4)	16 (47.1)	21 (36.2)	13 (26.0)	4 (17.4)	4 (18.2)	84 (37.5)	<0.001
満足	n (%)	3 (37.5)	8 (27.6)	18 (52.9)	37 (63.8)	37 (74.0)	19 (82.6)	18 (81.8)	140 (62.5)	
<b>夫 (n=112)</b>										
不満足	n (%)	1 (33.3)	10 (83.3)	5 (31.3)	10 (29.4)	5 (20.0)	3 (25.0)	2 (20.0)	36 (32.1)	0.005
満足	n (%)	2 (66.7)	2 (16.7)	11 (68.8)	24 (70.6)	20 (80.0)	9 (75.0)	8 (80.0)	76 (67.9)	
<b>妻 (n=112)</b>										
不満足	n (%)	4 (80.0)	11 (64.7)	11 (61.1)	11 (45.8)	8 (32.0)	1 (9.1)	2 (16.7)	48 (42.9)	<0.001
満足	n (%)	1 (20.0)	6 (35.3)	7 (38.9)	13 (54.2)	17 (68.0)	10 (90.9)	10 (83.3)	64 (57.1)	
		休日							合計	p for trend
		ほとんど 会話していない	15分未満	15~30分未満	30分~ 1時間未満	1時間~ 2時間未満	2時間~ 3時間未満	3時間以上		
<b>夫婦込み (n=229)</b>										
不満足	n (%)	0 (0.0)	2 (33.3)	8 (50.0)	10 (32.3)	8 (22.2)	9 (29.0)	10 (9.3)	47 (20.5)	<0.001
満足	n (%)	2 (100)	4 (66.7)	8 (50.0)	21 (67.7)	28 (77.8)	22 (71.0)	97 (90.7)	182 (79.5)	
<b>夫 (n=113)</b>										
不満足	n (%)	0 (0.0)	2 (50.0)	3 (42.9)	5 (27.8)	4 (20.0)	4 (26.7)	6 (12.2)	24 (21.2)	0.017
満足	n (%)	0 (0.0)	2 (50.0)	4 (57.1)	13 (72.2)	16 (80.0)	11 (73.3)	43 (87.8)	89 (78.8)	
<b>妻 (n=116)</b>										
不満足	n (%)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (55.6)	5 (38.5)	4 (25.0)	5 (31.3)	4 (6.9)	23 (19.8)	0.004
満足	n (%)	2 (100)	2 (100)	4 (44.4)	8 (61.5)	12 (75.0)	11 (68.8)	54 (93.1)	93 (80.2)	

注. Mantel-Haenszelの傾向性検定  
 注. 会話時間に対する満足度を「満足」「不満足」の2群に分類した。  
 回答で「ちょうどいい」「減らしたい」としたものを「満足」、「増やしたい」としたものを「不満足」としている。

表 8 コミュニケーション態度の夫婦関係満足度への影響

夫婦込み

	B	標準誤差	$\beta$	t値	p値
切片	11.56	1.81		6.40	<0.001
接近・共感	4.15	0.43	0.54	9.64	<0.001
威圧	-0.90	0.34	-0.15	-2.63	0.009
回避	-1.19	0.29	-0.20	-4.06	<0.001
調整済R <sup>2</sup>	0.49				

注. 重回帰分析 (従属変数: 夫婦関係満足度)

夫婦別

	B	標準誤差	$\beta$	t値	p値
<b>夫</b>					
切片	12.13	2.63		4.61	<0.001
接近・共感	3.93	0.62	0.52	6.38	<0.001
威圧	-1.00	0.48	-0.17	-2.09	0.039
回避	-1.08	0.53	-0.15	-2.05	0.043
調整済R <sup>2</sup>	0.46				
<b>妻</b>					
切片	10.99	2.55		4.32	<0.001
接近・共感	4.40	0.62	0.56	7.14	<0.001
威圧	-0.71	0.56	-0.11	-1.27	0.206
回避	-1.34	0.44	-0.22	-3.03	0.003
調整済R <sup>2</sup>	0.50				

注. 重回帰分析 (従属変数: 夫婦関係満足度)

表 9 コミュニケーションパターン群別の態度得点の平均値・標準偏差

コミュニケーション 態度	方向	評価者	接近共感群 (n=42)		威圧回避群 (n=65)	
			Mean	SD	Mean	SD
接近・共感	夫→妻	(妻)	3.25	0.34	2.65	0.48
	夫→妻	(夫)	3.39	0.32	2.68	0.38
	妻→夫	(妻)	3.51	0.41	3.04	0.48
	妻→夫	(夫)	3.26	0.39	2.65	0.42
威圧	夫→妻	(妻)	1.24	0.30	1.76	0.62
	夫→妻	(夫)	1.49	0.51	2.01	0.49
	妻→夫	(妻)	1.50	0.37	2.04	0.67
	妻→夫	(夫)	1.41	0.38	2.16	0.64
回避	夫→妻	(妻)	2.32	0.64	2.82	0.61
	夫→妻	(夫)	2.33	0.70	2.88	0.55
	妻→夫	(妻)	1.86	0.47	2.32	0.57
	妻→夫	(夫)	1.79	0.44	2.27	0.47

注. Two Stepクラスター分析

表 10 コミュニケーションパターン群別 夫婦関係満足度の比較

	接近共感群 (n=42)		威圧回避群 (n=65)		p値
	Mean	SD	Mean	SD	
夫					
夫婦関係満足度	21.90	2.21	17.69	3.42	<0.001
妻					
夫婦関係満足度	21.64	2.34	17.54	3.98	<0.001

注. 対応のないt検定